

# 難治性消化器がんに対する腫瘍溶解性・アデノウイルス

-その開発と今後の展望-

## 開催日時

- 令和3年11月9日(火) 18:30~19:30

## 参加について

- 京都大学附属病院所属の先生方(大学院生歓迎)
- 他施設からの参加希望の場合は、京都大学外科交流センターまでお問い合わせください。

## 当日プログラム

司会：京都大学肝胆膵移植外科/小児外科 教授 波多野悦朗先生

## 難治性消化器がんに対する腫瘍溶解性・アデノウイルス

-その開発と今後の展望-

Professor / Masato Yamamoto



Eugene C. and Gail V. Sit Chair in Pancreatic and Gastrointestinal  
Cancer Research Vice Chair of Surgical Science  
Director, Division of Basic and Translational Research  
Professor (Tenured)  
Department of Surgery, University of Minnesota  
ミネソタ大学外科  
外科研究担当副統括教授  
基礎・トランスレーショナル研究部部長  
教授(永年在職権保持)

近年の遺伝子治療及び遺伝子改変細胞治療の進展はめざましく、遺伝子改変を用いた治療法が全世界で次々と臨床試験に入ってきています。進行した消化器腫瘍はその防御的は特性のため現状の治療法が効きにくく、これらの新しい治療法の難治性固形腫瘍への応用は大いに期待されているところです。我々はウイルスの持つ細胞溶解性に着目し、アデノウイルスに由来する腫瘍溶解性ウイルスを開発してきました。我々の開発した high-diversity adenovirus library とその high-throughput screening を用いて開発された Infectivity-Selective Oncolytic Adenovirus (ISOAd) は細胞表面の分子に特異的に結合し、感染・増殖を起こし、全身投与での選択的治療を可能にする新世代のウイルスです。我々の研究室では、このほかにも、プロモーターを用いた腫瘍特異的増殖の実現や、OAd を用いた腫瘍局所での transgene の大量且つ特異的な発現、腫瘍の核医学的検出と治療を実現するウイルス等、様々なアプローチで固形癌の新しい治療法の開発に挑んでいます。今回は、この ISOAd を中心にオンコリティック・アデノウイルスの様々な可能性についてお話ししたいと思います。